

「四つのテスト」スピーチ 田村 憲一郎 会員 (ロータリー研修委員長)



今日は卵の話ではなく、親鳥の方の話をしてしようと思います。卵の商売はさっぱり儲からないのですが、鶏でがっちり儲けているのが、あのケンタッキーフライドチキンです。ケンタッキーの創業者は、店頭で見かける、白いモーニングを着てメガネをかけ、でっぱり太った白ひげのおじさん人形、カーネル・サンダースさんです。

阪神タイガーズが1985年優勝した時、阪神ファンが喜びのあまりカーネル人形を道頓堀に投げ捨てたために、カーネルさんの呪いがたたって、その後18年間も優勝出来なかったと言われております。

そのカーネル人形が20年ぶりに道頓堀のヘド口の中から救い出されたという話は、ご記憶の方も多いと思います。実はカーネルおじさんはロータリアンでして、白いモーニングの襟にはロータリーバッジが光っているのをご存知でしょうか、今度ケンタッキーを買いに行った時は、是非確かめて下さい。

カーネルさんは若い頃から苦勞し、色んな仕事を経験して29歳の時ガソリンスタンドを経営して、ようやく生活が安定します。その頃、ジェファーソンビルRCの設立に誘われチャーターメンバーとして入会します。時は1920年、ポール・ハリスがシカゴRCを立ち上げてから15年目の時でした。それから20年後、カーネルさんはフライドチキンのフランチャイズ制を採用して大成功を収めるのですが、商売の基本としたのは、その頃ロータリーが採用した「四つのテスト」を参考にして、

1. そのビジネスにうそ偽りはないか
2. そのビジネスは関係するすべての人に公正か
3. そのビジネスは良好な人間関係を作っていくものか
4. そのビジネスは関係するすべての人にとって有益なものか

という四つの指針を作って事業を伸ばしたそうです。

90歳まで長生きしたそうですので、カーネルさんにあやかって、元気良く「四つのテスト」を唱和いたします。



年末のスポーツ新聞の記事だったと思いますが、神戸の山口組本部では毎年年の暮れになると、市民向けに餅つき大会をやるそうです。親子ずれ1200人の人が押しかけたそうですが、子供達に3万円のお年玉が配られたとの事です、半数が子供とすれば1800万円のお金が配られた事になります。

この話をロータリー通の人に話をしたら、ロータリーがシカゴで誕生をしたのは今から105年前でロータリーの発展と並行して、あの悪名高いアル・カポネも、警察や政治家に賄賂を贈って、シカゴの闇黒街で着々と力をつけていったそうです。困ったシカゴの当局は、アル・カポネの犯罪組織を摘発する市民組織「犯罪調査委員会」を設立する事になった訳ですが、委員長はじめ9名がシカゴのロータリークラブの元会長で、4人が現役のメンバーだったと言われております。この委員長は市民がアル・カポネと癒着しないように、意識改革のPR作戦を展開しますが、アル・カポネはなかなか尻尾を出さず、シカゴクラブが出来て25年後の1931年、ついに脱税容疑で逮捕され、11年の刑が下された。

その間、アル・カポネの逮捕に果たした「犯罪調査委員会」の功績は大きく、その後もこの委員会には、多くのシカゴクラブのメンバーが関わってきたのです。

最近、私の住まいの若松町も組事務所がなくなり、新しくわが社の駐車場に生まれ変わりましたので、どうか安心して遊びに来て下さい。

## 「年男おおいに語る、そして新入会員卓話」 三宅 弘泰 会員

昭和37年生まれ 平成21年6月10日入会



「言葉」を大切にしたい、ちょっと気になったコラムから、『正直』について

「正直」うそやごまかしのない事、仏教用語で、心が正しくまっすぐに、仏道を志向していることをいうそうです。それから、嘘やごまかしのない事、影、日向のない事をいうようになりました。ところが「正直者」という言葉には、愚直な人というニュアンスが含まれることがあります。「馬鹿正直」「正直者は馬鹿をみる」これらの言葉はそのあらわれでしょう。

でも「正直は一生の宝」「正直のこうべに神宿る」「正直は最良の策」。

今まで伝えられてきた「正直」にまつわる諺を改めて見直してみると、忘れていた事に気がつきませんか。私たちは家族以外の人たちとも、信頼し合い、絆を結び、力をあわせる事が出来ます。それには、「正直」さが欠かせない要素なのです。

進化心理学などを手がけるウィリアム・オールマン氏は、著書「ネアンデルタールの悩み」の中で、こう言っています。

『人類が繁栄を続けてこられたのは、強かったからではない。人間が、地球上で最も協力し合う動物だからである。』

正直 信用 信頼 協力 提携

# 1 北海道観光の現状と課題

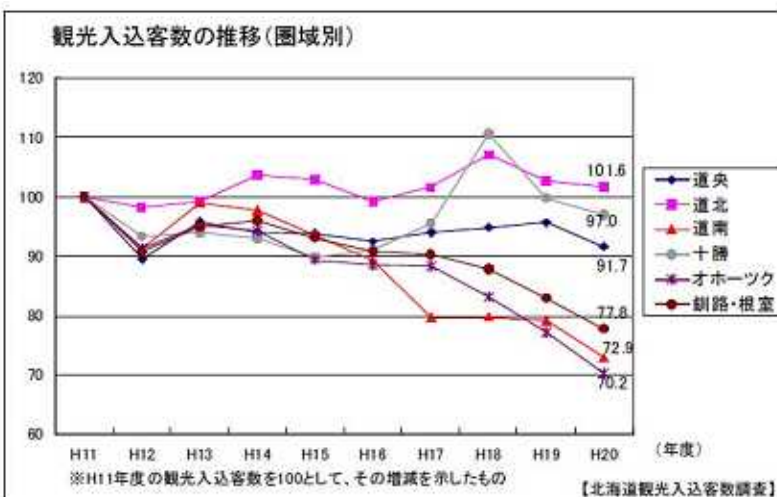
## (1) 観光入り込み客数の推移 入り込み客数は伸び悩み

北海道の観光入込客数（実人数）は、平成11年度の5,149万人をピークに伸び悩んでおり、特に平成20年度は、上期のガソリンの高騰による出控え、秋以降の世界的な金融危機に起因する景気の低迷などから、前年度5.1%下回り、4,707万人となった。このうち道外客は628万人で前年比3.2%減、道内客は4,079万人で5.3%減であった。国内観光客が低迷する中、訪日外国人来道者数は一貫して増加を続けてきたが、平成20年度は69万人で2.8%減と、調査開始以来初めて減少した。



### 落ち込みが激しい道南、道東

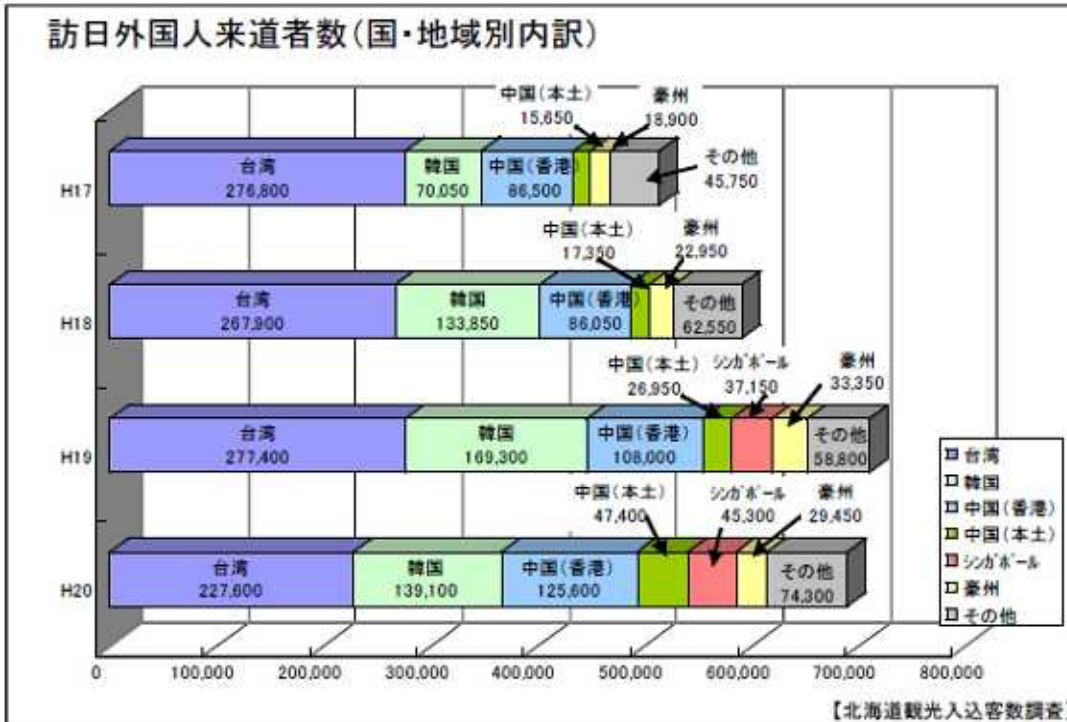
地域別に見ると、道南、道東の減少が著しく、平成11年度の入込客数を100とすると、道南（渡島・檜山）は72.9、釧路・根室は77.8、オホーツクは70.2まで落ち込んでいる。唯一増加しているのは道北（上川・留萌・宗谷）の101.6で、これは旭山動物園の効果が大きいと考えられる。





### 期待される中国市場

外国人観光客の内訳を国・地域別にみると、台湾が最も多く、次いで韓国、香港、中国、シンガポールとなっている。近年、中国やシンガポールからの来道者の増加が著しく、特に中国は、平成21年7月の北京、上海、広州の富裕層への個人旅行ビザの解禁や、道東を舞台とした中国映画の大ヒット（中国人の3億人が見た）などにより北海道人気が高まっており、今後のさらなる伸びが期待されている。

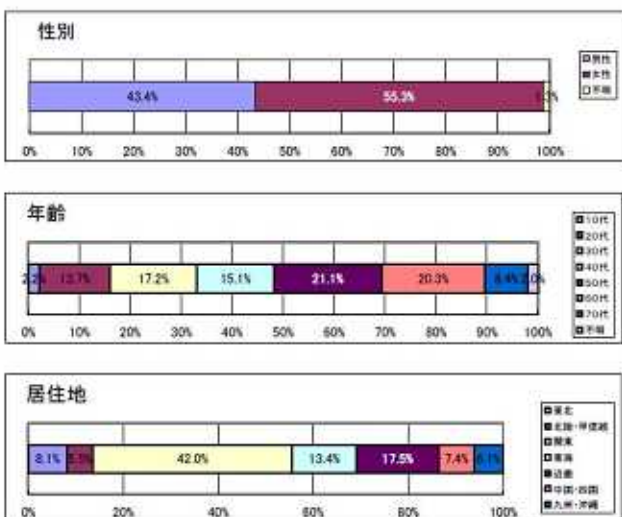


### (2) 観光客の動態

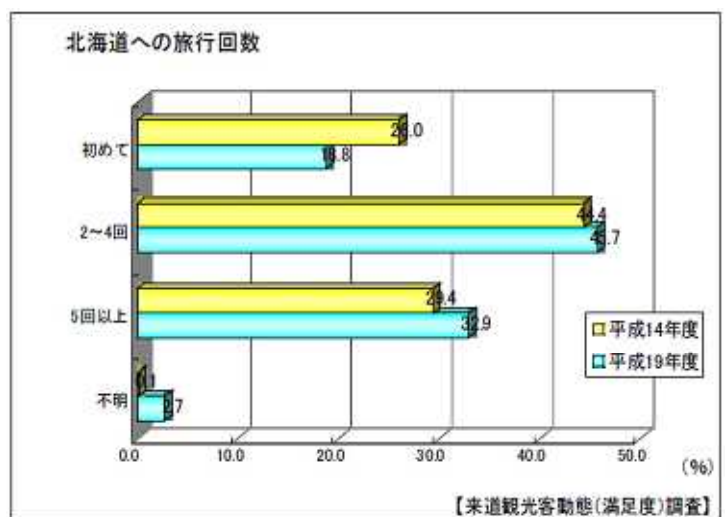
#### 来道観光客の属性

北海道を訪れる観光客の属性をみると、性別では男性が43.4%、女性が55.3%で、女性の割合が10%以上大きくなっている。年齢別では、50代60代が多く、居住地別では、関東が42%と群を抜いて多くなっている。

北海道を訪れる道外観光客のうち約80%は過去に来道経験があるリピーターで、5回以上の来道経験をもつ「北海道ファン」も30%を超えている。



【平成19年度来道観光客動態(満足度)調査】



### (3) 観光産業の状況

#### 農業と肩を並べる観光産業

北海道の観光総消費額は1兆2946億円で、基幹産業である農業の産出額に匹敵する規模になっている。このうち道外客による消費額は5,280億円、道内客による消費額は7,666億円で、入込客全体の13%に過ぎない道外客の消費が全体の4割をしめている。この観光消費がもたらす生産波及効果は1兆9770億円と推計されており、サービス業、製造業、運輸業をはじめとする様々な産業に波及している。

